

令和6年度

鴨島東中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

自ら学びたくなるような魅力ある授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
山城 雄児	校長 堀川昌宏 教頭 西村 広志 教務 三木章規 3学年主任 仁木島治美 教諭 藤澤恭子

校長

堀川 昌宏

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

相互の授業参観の他、共通のアンケート等を実施する

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に取り組み、期限内に提出できる。 ○振り返りを行うことが習慣化している。 ●学力の二極化が見られ、苦手を克服できず、学習意欲が低下する生徒もいる。	①基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけ、それを使ってより発展的な内容に挑戦できる。 ②授業の目標やねらいを理解し、到達度を確認できている。	①ICT機器の活用、発問や板書の工夫等により、わかりやすい授業をする。 ②授業の目標を必ず提示し、今何を学んでいるのか意識できるようにする。 ③ICT機器等を活用して、学習の振り返り(R80)を実施・生徒間の共有を図るとともに、その振り返りから授業改善を図る。	習熟が不十分な分野について、復習できるようなプリント等を準備する。	・お互いの授業を参観することで、発問や板書において、どのような工夫があるか共有することができ、改善につながったが、ICT機器の活用については、学校評価アンケートにおいても引き続き課題として残っているのが読み取れる。 ・目標の提示については徹底できているので、目標と振り返りを対応させていきたい。	学校評価アンケートよりICT機器の活用とわかりやすい授業については引き続き課題となっている。ICT機器の活用については、次年度から新しいタブレットも導入予定なので、全体研修で活用方法を共有する。わかりやすい授業については、振り返りから生徒の習熟が不十分な部分を明らかにし、その手当を施していく。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友だちの意見をしっかり聞いたりできる生徒が多い。 ●課題に応じて、資料から必要を読み取ったり、それをまとめる力が弱い。 ●語彙が少なく長い文章の読み取りが苦手である。また、自分の考えを適切な言葉で表現する力が弱い。	①資料から課題に必要な情報を読み取り、順序立ててまとめることができる。 ②他者と自分の考えを比べて、よりよい意見を提案したり、説明したりすることができる。 ③読書を通して、語彙を増やすことができる。	①重要な部分に線を引かせるなど情報を的確に読み取る手立てを行う。 ②授業において、ペアやグループ活動等を利用して、自らの考えをアウトプットする場面を設定する。 ③ICT機器を活用して生徒の思考の共有化を図る。 ④朝の読書の時間に新聞を活用する等様々な表現に触れる機会を設ける。	授業の中で、言葉や文章で説明する課題や場面を増やすとともに、その際に何が根拠になっているかを意識させる。	・教師が重要な部分を示すと、線を引くことはできるが、生徒自身で重要な部分はどこか判断して線を引くことには課題が見られる。 ・ペアやグループ活動を適切な場面で取り入れることができたが、苦手な生徒に関しては、得意な生徒の意見をそのまま受け入れてしまうこともあったので、工夫が必要である。	各種学力調査より自分の考えをまとめて文章にしたり、根拠をもって説明したりすることに引き続き課題が見られる。授業で説明する課題や場面を積極的に取り入れるとともに、どのように説明すればよいのかその表現方法についても身につけさせていく。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自主勉強ノートは具体例を示すと、取り組むことができる。 ●与えられた課題はきちんと取り組むが、それだけで留まる生徒も多い。 ●自分のよいところを、言葉にできない生徒が多い。	①授業開始前に準備が整い、チャイム前に着席ができている。 ②習熟の程度に応じて、自分にできることを考え、粘り強く課題に取り組むことができる。 ③自分の力を信じて、試行錯誤し、自分に合った勉強法を見つけ、主体的に学習に取り組むことができる。	①2分前着席を徹底し、落ち着いて授業を開始する。 ②生徒の習熟に合わせて、個別最適化した学習を図る。 ③具体的にポジティブな声かけをし、PBSの取組により、目指す生徒像とその方策を生徒と共有する。	机間指導や振り返りを通して、生徒のつまづきに対して助言をし、最後まで粘り強く取り組めるよう支援する。	・生徒会と連携し、各学期に2分前着席の重点週間を設定することで、2分前着席の習慣化を進めることができた。 ・習熟度に合わせて課題の工夫が見られた教科もあったが、その手法の共有ができていなかった。	生徒の習熟度に合わせた個別最適化をより一層進めていくために、それぞれが行っている手法を共有し、取り入れていくことで生徒が最後まで粘り強く取り組めるようにしていく。

令和6年度 学力向上ロードマップ

